

書評・紹介

『中国 1990年人口普查 10%抽様資料』

国務院人口普查弁公室・国家統計局人口統計司編

中国統計出版社, 1991年7月, 北京, 708頁

中国の人口センサスは、第1回が1953年(6.19億)、第2回が64年(7.23億)、初めての近代的な第3回が82年(10.31億)に実施され、建国後わずか32年間に人口が倍増したことや、大躍進・自然災害時(60年前後)の非正常死約1,600万人の判明など、多くの貴重な歴史的事実を人口面から明らかにした。今回の90年第4回は、調査員数と調査指導員のみでも700万人を数える世界一の大規模調査となった。

調査方法は前回は臨時の調査ステーションを設けてそこで調査員が聞き取りをしたが、今回は調査員が各家庭を訪問しての直接調査となった。調査項目は前回の19項目から21項目に増加したが、その内容は「5年前の居住地」「前居住地の都市・農村類型」と「移動要因」の3項目であった。

つまり今回90年センサスの最大の課題は、計画外出産人口と流動人口の正確な登記にあった。

今回の結果で最も注目されるのは、無戸籍人口が約1,500万人いたことの判明であった。これは90年10月末に国家計画出産委員会の彭珮雲主任が来日した折に判明したのであり、国家統計局の孫競新副主任の91年11月8日來日講演でも事実を認めた。年平均180万人余りが誕生しながら戸籍登録をされていなかったという事実が判明した。これをうけて『中国統計年鑑』91年版では、82-89年の総人口、出生率、死亡率、自然増加率の基本数字を前年統計年鑑より全面改訂を行った。

さて、この人口センサスの結果は、90年秋に主要数字が発表され、さらに91年10月末に10%集計結果報告書が完成したが、本書は後者である。

本報告書の構成は、第1巻概要、第2巻城郷(都市農村)分布、第3巻民族、第4巻年齢、第5巻文化(教育)程度、第6巻職業・行業(産業)、第7巻不在業人口、第8巻家庭戸、第9巻婚姻、第10巻生育(出生)、第11巻遷移(移動)、附表として人民解放軍、附件として「第四次全国人口普查弁法」等が収録され、全708頁からなる。

1990年7月1日現在の中国総人口は、11億6,002万人で、世界総人口の22%を占め、台湾、香港、マカオを除いた大陸人口は11億3,368万人である。前回の82年からの8年間に年平均1,569万人、年率1.48%の増加となった。

今回は初めて調査区を導入、結果の精度は標本抽出検査により、人口重複登記率0.1%、人口脱漏登記率0.7%、両者相殺して純誤差率0.6%、性比誤差率0.14%、年齢誤差率3.07%、出生人口脱漏申告率1.03%、死亡人口脱漏申告率4.9%であった。

黒孩子(ヤミっ子)1,513万人の判明による改訂と並んで最大の課題であった流動人口については、1年以上の流動人口は3,384万人(内省・市・自治区=地区内移動は2,300万人、地区間移動は1,084万人)、1年以内は調査項目に入らなかったが推計で4,000万人、計7,000万人強、移動率6-7%とみられている。法的戸籍変更を伴う移動=「遷移」に対して、戸籍変更を伴わない移動=「流動」とを厳しく概念区分されている。

ともあれ、今後全数(100%)集計によって、黒孩子の性別、年齢別、地区別等の公表などがまれるが、この10%集計によってかなりの興味深い結果が示され、中国人口研究への寄与が絶大である。なお、これらの主要結果を日本語としてまとめて紹介したのに、若林敬子編・杉山太郎監訳『ドキュメント 中国の人口管理』並紀書房、1992年3月刊行を参照されたい。

(若林敬子)